



鹿児島東高校との合同ミニゲームで
技を磨く（中央が原良田選手）

鹿児島高等特別支援学校は平成24年、鹿児島東高校の敷地内に開校した。同時に発足した本校サッカー部は当初、鹿児島東高校のサッカー部とは別々に練習していたが、3年目から合同練習を開始、障害のあるなしを超えた部活動が始まった。

本校サッカー部が日本サッカー協会に加盟したことを契機として、地元の公式戦に合同チームとして出場できるようになると、これが刺激となり、練習や試合への意気込みが一気に増した。合同練習を始める以前には、ほとんど出ていなかった声がよく出るようになった。今ではチームプレーの楽

高校との合同チームで公式戦出場

しさを理解し、自信に満ちた声掛けで絆を深めている。今年も、地元強豪校と対戦しても簡単には点を与えない試合展開をできるまでに成長した。

顧問の柘野悠太教諭は、合同チームによる練習や公式戦出場が本校生を加速的に成長させた、と実感している。インクルーシブ教育の実践例として、周囲からの評価も高い。特に彼らの保護者は、これまでに見たことがないわが子の変容ぶりに驚きを隠せない。

この夏、日本知的障がい者サッカー連盟から、うれしい知らせが届いた。3年生部員の原良田龍彦選手が、世界選手権サッカー大会の日本代表選手に選ばれたのだ。去る9月、このことを本校と鹿児島東高校との合同体育祭で紹介すると、両校の生徒や保護者から激励の盛大な拍手が送られた。

今年の本校サッカー部の最大の目標は、本校単独のサッカー部として、全国大会「もうひとつの高校選手権」に九州代表として再度出場することである。

（小山昭洋・鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校校長）